

川崎町史上巻 目 次

第一編 川崎町の自然・地理

第一章 川崎町の位置と面積

- 第一節 川崎町の位置
- 第二節 川崎町域と面積
- 第三節 川崎町の土地利用
- 第四節 川崎町の人口と世帯数

第二章 川崎町の地形

- 第一節 地 形
- 第二節 中元寺川と陣谷ダム

第三章 気 候

- 第一節 気温・温度
- 第二節 降水量・風

第四章 地 質

- 第一節 川崎町の地質
 - 一 地質概説
 - 二 地質各説
- 第二節 川崎町の地史
 - 一 古生代の川崎町
 - 二 中生代の川崎町
 - 三 新生代古第三紀の川崎町
 - 四 新生代新第三紀の川崎町
 - 五 新生代第四紀の川崎町

第五章 生 物

- 第一節 植 物
 - 一 植生概況
 - 二 森林植生
 - 三 神社林
 - 四 河川敷の植物
 - 五 上安宅・小峠地区の棚田の植生
 - 六 天然記念物およびそれに次ぐ植物
 - 七 注目すべき植物
- 第二節 動 物
 - 一 動物の概況
 - 二 哺乳類
 - 三 鳥 類
 - 四 は虫類
 - 五 両生類
 - 六 円口類・魚類
 - 七 昆虫類

第二編 原始・古代

第一章 縄文時代

- 第一節 田川地方の縄文文化
- 第二節 川崎町域の縄文遺跡
 - 一 縄文人たちの生活
 - 二 冥加塚の縄文人たち
 - 三 その他の遺跡から

第二章 弥生時代

第一節 田川地方の弥生文化

- 一 水田稲作の始まり
- 二 弥生人たちの生業

第二節 川崎町域の弥生遺跡

- 一 田原遺跡群
- 二 永井遺跡
- 三 太田遺跡とその周辺
- 四 真崎遺跡とその周辺
- 五 その他の弥生遺跡

第三節 弥生社会の階層分化

- 一 ムラの発生と弥生人たちの戦い
- 二 川崎町域の首長たち

第三章 古墳時代

第一節 田川地方の古墳文化

- 一 高塚墳墓の登場

第二節 川崎町域の古墳文化

- 一 古墳時代の遺構
- 二 古墳時代の墳墓
- 三 須恵器窯跡
- 四 中世の遺跡

第三編 古代・中世

第一章 中元寺川流域（川崎町）の古代を探る

- 第一節 川崎町の史跡と神話の世界
- 第二節 古代の郷土
- 第三節 律令政治の推移と私有地
- 第四節 天満宮、宇佐八幡宮の信仰圏の広まり
- 第五節 平安末期の町内荘園の成立
- 第六節 源平の争乱と田川

第二章 鎌倉政権と鎮西

- 第一節 東国御家人の鎮西下向
- 第二節 豊前国凶田帳と承久の乱
- 第三節 元寇前後の北条氏の九州進出
- 第四節 霜月騒動と岩門合戦
- 第五節 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政

第三章 南北朝時代の豊前

- 第一節 豊前守護と北部九州の重要性
- 第二節 多々良川の合戦と尊氏の勝運
- 第三節 尊氏、直義と田川郡上野興国寺
- 第四節 太平記、梅松論にみる南北朝争乱

第四章 室町幕府の九州統治

- 第一節 今川了俊の登用による征西府の滅亡
- 第二節 大内氏の九州進出と応永の争乱
- 第三節 少貳貞頼との争乱
- 第四節 大宰大貳となった大内義弘の野望
- 第五節 応永戦乱期の田川郡の資料の考察
- 第六節 勘合貿易・私貿易の隆盛

第五章 応永から応仁期頃の郷土

- 第一節 資料にみる盛見の田川郡での動向
- 第二節 少貳方秋月城と木城
- 第三節 大内氏の豊前制覇と田河郡所領
- 第四節 雪舟と法光寺と魚楽園
 - 一 雪舟の豊前入りと法光寺
 - 二 雪舟と作庭
- 第五節 荒平・黒木にみる中世村落の考察
 - 一 村落の開発と景観
 - 二 藤江家についての資料
 - 三 荒平・黒木村の村内階層
- 第六節 室町末期の中央寺院領と町内荘園
 - 一 石清水八幡善法寺と池尻
 - 二 長府長福寺、岩国永興寺と池尻庄
 - 三 南禅寺龍華院と田原の庄
- 第六章 戦国大名大内、大友氏の豊前の争乱
 - 第一節 戦国大名大内義隆と豊前
 - 第二節 戦国大名大友氏の豊前侵攻
 - 一 戦国大名化した大友氏
 - 二 義鎮の豊前侵攻
 - 三 大内氏に関する資料の考察
 - 第三節 大友氏と毛利氏の争乱
 - 一 大友氏の田川郡内勢力地
 - 二 真崎の立遠城（竜円城）
 - 三 戦国大名に成長した毛利氏の豊前侵攻
 - 四 毛利氏の豊前支配に関する資料
- 第四編 近世
 - 第一章 豊臣秀吉の九州平定
 - 第一節 岩石城
 - 第二節 毛利氏支配下の田川地方
 - 第二章 細川小倉藩の成立と展開
 - 第一節 細川小倉藩の成立
 - 一 細川忠興（三斎）と幕閣
 - 二 細川——黒田間の領地引き継ぎ
 - 三 細川——黒田の関係
 - 四 細川忠興から忠利へ
 - 五 難攻不落の岩石城
 - 第二節 家臣団の編成と知行地の経営
 - 一 慶長六年検地と知行地の配分
 - 二 知行地の支配
 - 三 家臣たちの財政事情
 - 四 知行地経営の放棄
 - 第三節 細川時代の村社会
 - 一 農村政策の基調
 - 二 細川領の「人畜改帳」
 - 三 走り者の村々
 - 四 田川郡の年貢納入反対
 - 五 年貢の納入と未進
 - 第三章 小笠原の入部と支配

- 第一節 小笠原の入部
 - 一 譜代大名小笠原
 - 二 小笠原の豊前入国
- 第二節 小笠原の農村支配
 - 一 地方行政のしくみ
 - 二 村の支配組織
- 第三節 小笠原時代の村
 - 一 田川郡の地勢と道
 - 二 田川郡の六手永
 - 三 猪膝手永の村
- 第四節 小笠原時代の貢納制度
 - 一 年貢徴収法
 - 二 村の納米内訳——荒平村の場合
- 第四章 荒廃する農村
 - 第一節 凶作と飢饉
 - 第二節 農民の窮乏
- 第五章 産業と流通
 - 第一節 農間余業と殖産興業
 - 一 榎実の生産と生蠟の流通
 - 二 菜種子の生産と流通
 - 三 酒造業
 - 四 諸産物の生産と商人札
 - 第二節 林業（生産と政策）
- 第六章 幕末維新期の小倉藩
 - 第一節 小倉藩の海防と農兵
 - 一 危機意識の高まり
 - 二 農兵と譜代召し抱え
 - 三 攘夷の決行
 - 四 英彦山の動向
 - 第二節 第二次長州戦争
 - 一 長州藩再征の政治状況
 - 二 戦時下の村々
 - 三 打ちこわしの発生
 - 四 田川郡への撤退
 - 五 香春藩から豊津藩へ
- 第七章 近世の教育・医学・文化
 - 第一節 教育
 - 一 藩校
 - 二 私塾
 - 三 寺子屋
 - 第二節 近世の医学
 - 第三節 近世の文化
 - 一 諸芸
 - 二 紀行
 - 三 英彦山信仰
- 第五編 近代
 - 第一章 明治維新の改革と地方
 - 第一節 藩制から県制へ

- 一 版籍奉還と香春、豊津藩
- 二 廃藩置県と豊津県
- 第二節 明治維新の新政策
 - 一 新しい身分制度
 - 二 学制の公布
 - 三 徴兵令の公布
- 第三節 明治四年の田川郡打ちこわし
 - 一 廃藩置県と打ちこわしの始まり
 - 二 打ちこわし勢の首謀者たち
 - 三 打ちこわしの対象
- 第二章 地方制度の変革
 - 第一節 地方自治の芽生え
 - 一 藩の変遷
 - 二 藩から県へ
- 第三章 地租改正と大区・小区
 - 第一節 改正の要点
 - 第二節 戸籍
 - 第三節 大区・小区制
 - 第四節 区長と戸長
- 第四章 町村の自治
 - 第一節 三新法の成立
 - 一 郡区町村編成法
 - 二 府県会規則
 - 三 区町村会法の改定
 - 四 町村分画の改正
- 第五章 町村制の整備
 - 第一節 町村合併
- 第六章 地方自治の整備と発展
 - 第一節 郡制の施行
 - 第二節 田川郡における郡制の実施
 - 第三節 郡制の改革
 - 第四節 田川郡役所
 - 一 郡の財政規模
 - 二 各町村の分賦金の負担
 - 第五節 郡制廃止
- 第七章 明治・大正期の産業
 - 第一節 農業
 - 一 米
 - 二 麦
 - 三 その他の作物
 - 第二節 小作
 - 第三節 田川郡第一回共進会の開催
- 第八章 戦争と郷土
 - 第一節 明治政府の軍事組織の強化
 - 一 鎮台の創設
 - 二 小倉歩兵第一四連隊の創設
 - 第二節 士族の反乱
 - 一 佐賀の乱

- 二 秋月の乱
- 三 西南戦争
- 第三節 明治期の戦争
 - 一 日清戦争
 - 二 日露戦争
- 第四節 大正期の戦争
 - 一 第一次世界大戦
 - 二 シベリア出兵
 - 三 大戦の影響
 - 四 大戦後の動向
- 第五節 昭和期の戦争（一五年戦争）
- 第六節 戦争余話
- 第六編 川崎町における石炭鉱業のあゆみ
 - 第一章 幕藩体制下における石炭鉱業のあゆみ
 - 第一節 石炭の発見と利用
 - 一 発見伝承と初期の利用
 - 二 自家燃料から商品化へ
 - 第二節 石炭採掘や流通への統制
 - 一 石炭採掘の発展と統制
 - 二 運搬流通の問題
 - 三 赤池会所の設立と石炭専売制度
 - 第二章 石炭鉱業の近代化と石炭産業の発展
 - 第一節 鉱山開放と日本坑法
 - 一 鉱山開放
 - 二 日本坑法の発布
 - 三 中原嘉左右の活躍
 - 第二節 筑豊炭田の発展
 - 一 筑豊の概念の成立
 - 二 筑豊石炭礦業組合の成立と活動
 - 三 選定坑区の設定と海軍予備炭田の開放
 - 四 田川郡内の選定坑区の状況
 - 第三節 石炭運送の近代化
 - 一 石炭運送と坑業組合
 - 二 鉄道の敷設と川艦運送の凋落
 - 第四節 筑豊炭田と田川
 - 一 田川郡の炭坑
 - 二 技術革新と災害予防
 - 三 炭坑労働者の処遇
 - 四 納屋制度の変遷
 - 五 炭坑労働者の待遇改善と定着化
 - 第五節 川崎町域における炭坑の状況
 - 一 明治中期までの川崎町域の炭坑
 - 二 明治時代後期以降の川崎町域の炭坑
 - 三 豊州炭坑について
 - 四 三井田川鉱業所
 - 五 原 六郎と大任炭坑
 - 六 蔵内鉱業株式会社
 - 七 共同石炭鉱業株式会社

- 八 古河鋳業株式会社
- 第三章 戦中・戦後の石炭鋳業
 - 第一節 川崎町域における炭坑
 - 一 敗戦直前の炭坑の状況
 - 二 敗戦直後の炭坑の状況
 - 第二節 戦後の石炭鋳業の推移
 - 一 国策としての石炭増産
 - 二 石炭保護政策の転換と統制の廃止
 - 第三節 戦後の川崎町の炭坑
 - 一 筑豊地区の炭坑の状況
 - 二 川崎町の炭坑の状況
 - 第四節 石炭鋳業合理化と炭鋳閉山
 - 一 石炭鋳業合理化への道
 - 二 石炭鋳業合理化臨時措置法案成立と合理化
 - 三 川崎町の炭鋳と閉山